

## ある自主防災組織における意思決定法

## ～みさと第一住宅自主防災会の場合～

01000860 日本工業大学 飯倉 道雄 IKKURA Michio

## 1. はじめに

阪神大震災以後、各地の自主防災組織は、「その組織の在り方」や「事業計画」などの見直しをはじめた。しかし、自主参加の地域住民からなる防災会にあって、その組織を自己評価し、新たな計画を立案し、合意を得ることは容易でない。著者らの所属する「みさと第一住宅自主防災会」においても、「阪神大震災を教訓にした新たな事業計画」が要求された。そこで、「ドラッカーの5つの質問」<sup>[1]</sup>を参考に議論を重ね、新たな事業計画を立案した。そこに至る経過および結果を報告する。

## 2. みさと第一住宅自主防災会の概要

埼玉県三郷市は、東京都および千葉県に隣接し、中川と江戸川の間位置している。この三郷市の最北端に「みさと団地」がある。この団地は、日本住宅公団が建設し、1973年より入居開始した、造成面積約83.3ヘクタール、約8,800戸の大型団地である。みさと第一住宅はその中央に位置し、約6.3ヘクタールに中層(鉄筋コンクリート5階建)26棟、集会所(2階建)が建つ、688戸の住居区であり、1974年より入居開始された。みさと第一住宅自主防災会(防災会)はこの住民で組織された自主防災組織であり、三郷市の指導のもと1991年に発足した。会員数は688世帯である。

この防災会の活動は、各種防災用品の備蓄及び定例防災訓練の実施のほか、以下の活動を行ってきた。

- ・多目的井戸の掘削(揚水用発電機の整備)
- ・各棟の階段に手摺の取り付け
- ・屋上の住所表示(1文字2m×2m)
- ・夜間防災訓練の実施<sup>[2]</sup>
- ・街路樹の枝打ち木を利用した薪・炭の備蓄
- ・公報紙の発行(年2～3回)
- ・県防災学習センターでの体験学習

防災会の定例会合は防災会議と呼ばれ、毎月第4土曜日夜に行われている。この会議は会員の誰でもが参加でき、この会議によく参加する会員(役員)がそ

れぞれの役割を分担している。

## 3. 集合住宅と地域社会

集合住宅の区分所有による多くの地域社会と同じように、みさと第一住宅は次の特徴をもっている。

- 1) 隣接地域社会に対して新住民である。
- 2) その地域に対して第一世代がほとんどである。
- 3) 勤労者世帯がほとんどである。
- 4) 年間5%程度の転出・転入がある。

新住民でつくる地域社会は、古い因習にとらわれな自由な社会であるともいわれる。しかし、地域の連帯意識の稀薄な社会でもある。表1は、防災会が1993年8月に実施した「震災に対する意識調査」の結果(688件中回答された455件を集計)である。回答者の半数弱は防災会の存在さえ意識していない。又、半数以上は大地震に襲われるかもしれないとの意識もなく、当然それに対する備えもない。阪神大

表1 「震災に対する意識調査」結果 1993.8実施

- |                            |              |               |               |
|----------------------------|--------------|---------------|---------------|
| 1.大地震は近い将来来ると思いませんか。       | はい(40%)      | いいえ(4%)       | わからない(56%)    |
| 2.来るとすれば                   | 1年以内<br>(2%) | 3年以内<br>(13%) | 3年以遠<br>(21%) |
|                            |              |               | 無回答<br>(64%)  |
| 3.自主防災会があることを知っていますか。      | はい(46%)      | いいえ(50%)      | 無回答(4%)       |
| 4.タンスや食器棚などに倒れどめをしていますか。   | はい(17%)      | いいえ(74%)      | 無回答(9%)       |
| 5.災害時の避難集合場所を知っていますか。      | はい(81%)      | いいえ(15%)      | 無回答(4%)       |
| 6.タンスの上に重たいものなどをのせていませんか。  | はい(53%)      | いいえ(42%)      | 無回答(5%)       |
| 7.家庭用消火器を置いていますか。          | はい(37%)      | いいえ(57%)      | 無回答(6%)       |
| 8.家族で非常時の連絡方法などを話し合っていますか。 | はい(35%)      | いいえ(57%)      | 無回答(8%)       |
| 9.非常用の食料、水や薬などを用意していますか。   | はい(23%)      | いいえ(71%)      | 無回答(6%)       |

震災直後、行政の危機管理の不備が指摘されたが、本来、危機管理は危機意識があってこそ存在するものとも考えられている。

#### 4. 新たな事業計画の立案

阪神大震災後、防災会は1995年度事業計画の策定に着手した。防災会議では下記の提案があった。

- 1) 行政の危機管理に対する見直し要請
- 2) 備蓄資材(食料・燃料・医療品など)の増強
- 3) 災害対策の強化
  - ・消火器設置(街角消火器)
  - ・共用階段へ手摺の取り付け
  - ・汚水枴利用の簡易トイレ設置
  - ・幼児用遊戯プールの防火用水の利用
- 4) 技術訓練としての防災訓練の実施
- 5) 防災関連用品即売会の実施

1995年度は1)を除いて概ね実施されたが、夜間防災訓練以外は、会員の関心は薄かった。特に防火用水での水難事故を心配した反対運動や即売会での価格への非難があった。

1995年度事業を反省し、1996年度事業計画を立案するにあたり、防災会の根本的な見直しが提案された。そこで、「ドラッカーの5つの質問」を利用した防災会の自己点検・評価を企画した。図1は、文献[1]を参考にして作成したワークシートの一部である。このワークシートを防災会役員に配布し、これを利用した事業計画立案の趣旨説明を行い、1ヶ月後に事業計画立案のための防災会議を開いた。そこで議論展開の概要を図2に示す。経歴、職業や習慣など異なる新興地域社会の会合では、ややもすると表面的な議論に終始しがちであるが、予め配布されたワークシートの内容に絞った会議では、実質的な議論が効率よく行われた。

#### 4. おわりに

「ドラッカーの5つの質問」を利用して、防災会役員意識を確認し、新たな事業計画を策定した。この方法は計画策定への合意形成には十分機能することが分かった。しかし、この計画そのものの評価について、そのほとんどは今後に残されている。

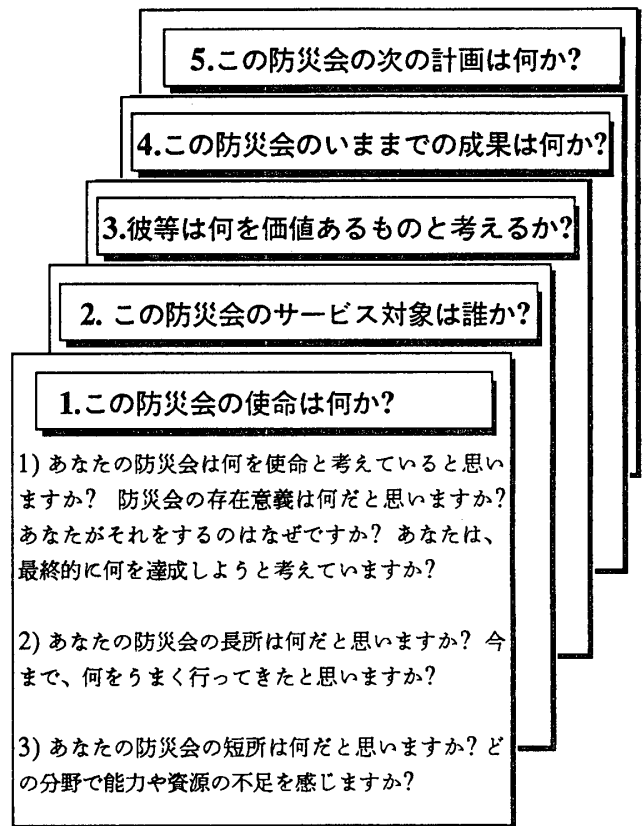


図1 自己点検・評価のためのワークシート

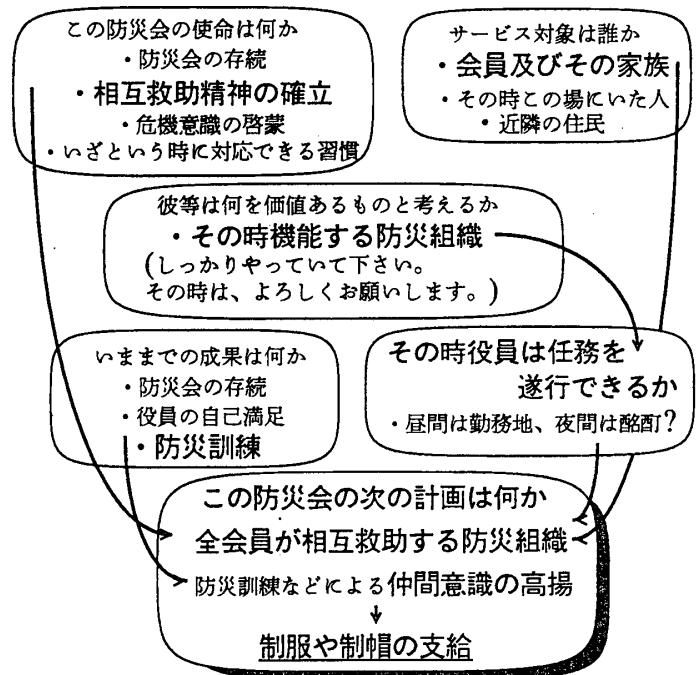


図2 議論展開の概要

#### 参考文献

- [1] P.F.ドラッカー著、田中弥生訳：非営利組織の「自己評価手法」、ダイヤモンド社 (1995)
- [2] 埼玉・三郷市消防本部：自主防災会が夜間防災訓練を実施、月刊消防、Vol.18 No.3 (1996)